

支笏湖学のすすめ その2

北海道地質調査業協会

技術アドバイザー 若松 幹男

平成19年11月26日に、千歳市立支笏湖小学校で特別授業を行いました。そのときの授業状況写真と新聞記事や学校だよりを掲載します。

支笏湖小学校は、若松が昭和27年（1952年）に卒業した学校です。自分が地質学を学んだことから、母校の子供達に少しでもその知識をお返しできればと考え、学校へ特別授業を申し込んだところ、快く引き受けて頂きました。

授業はパワーポイントと手作りの火山噴火実験道具などを使いながら、火山の仕組みや支笏火山の出来方を説明しました。生徒全員が実験に加わり、面白がっておりましたが、それ以上に、講師の若松が楽しい時間を過ごすことができました。自画自賛ですが、子供達の純粋な気持ちが写真にあらわれており、恐らく、彼等にとって印象に残る授業ではなかったかと思っております。思いがけず、生徒の数以上の父兄も参加しており、その方々にも喜んでもらえました。



支笏湖小学校屋上からの眺め 同校ホームページより

支笏湖小学校特別授業 「支笏湖のできるまで」

全校生徒12名 講師：若松 幹男 北海道地質調査業協会 技術アドバイザー



生徒よりも多い父兄の参加



真剣に聞き入る生徒達 父兄の顔には笑顔もみられる



マグマだまり（マヨネーズの容器）から噴き出す溶岩の実験
溶岩がニョロニョロと噴き出し、溶岩丘ができあがるのに皆大喜び



溶岩噴出実験道具一式



溶岩噴出実験セット状況



溶岩噴出実験状況

手前は粘性の低い溶岩
奥は粘性の高い溶岩

日頃みない化石に手をふれ喜ぶ生徒達 （化石は山の手博物館から借用）



真ん中の化石は金属（黄鉄鉱）に置きかわった珍しいアンモナイト



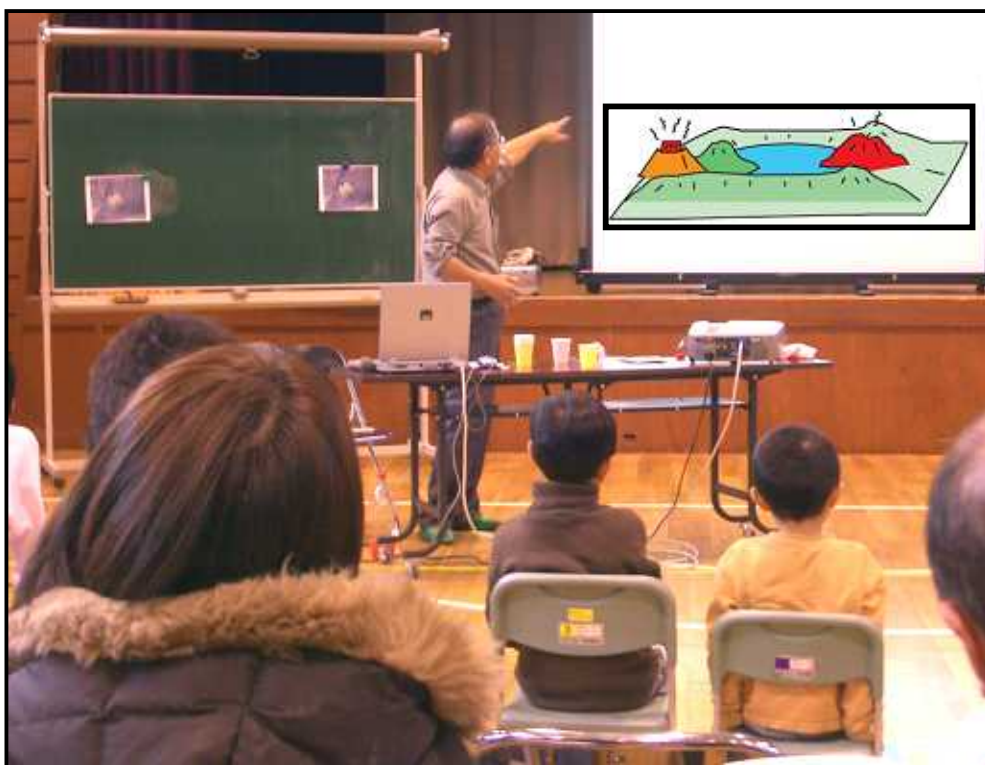
砂が流れて溜まっていく様子を見る堆積実験 (道立地質研究所から借用)
ここに動物や植物が溜まると化石になる



休憩のひととき 若松のポン友 早川禎治氏のオカリナ演奏に聴き入る
生徒が手にするカップは、後に実験に使うマグマ(コーラ)が入っている



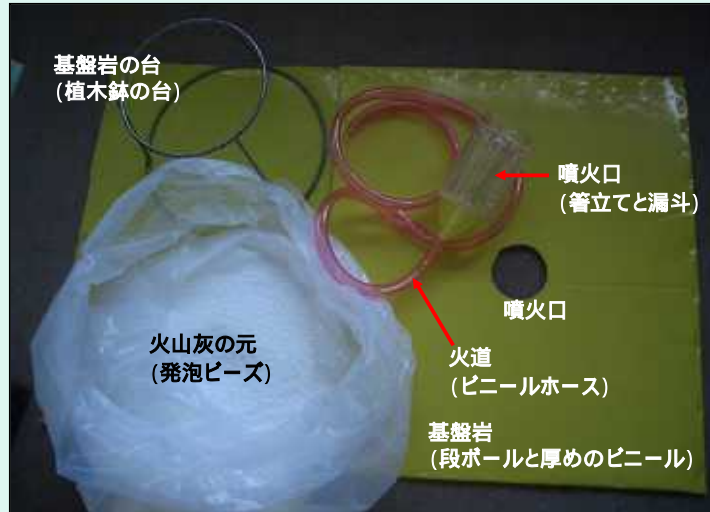
若松大々々々先輩の話はまだまだ続くが、飽きる生徒は一人もない？
1時間の予定が、時間オーバーし2時間近くの授業になってしまった



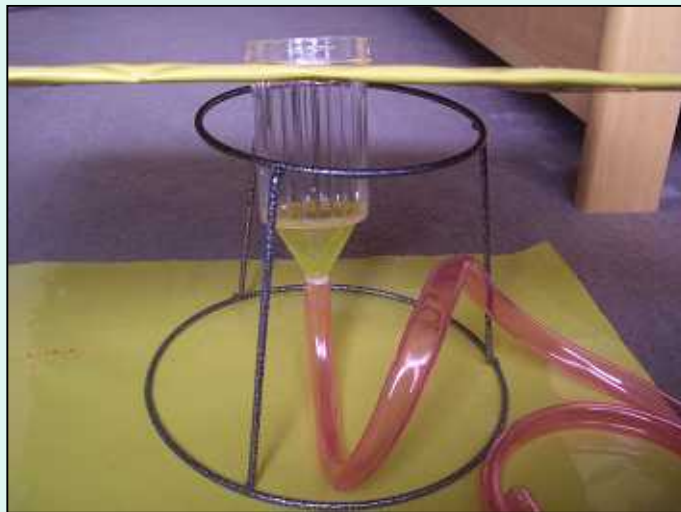
火山灰の噴火実験　実験道具は全て若松先輩の手作りである
面白がり、結局、生徒全員が変わりばんこに吹くことになった



噴火実験道具一式



噴火実験セット状況



噴火実験状況

吹き上げた後に噴火口ができる



最後に授業の感想を述べる小野寺後輩

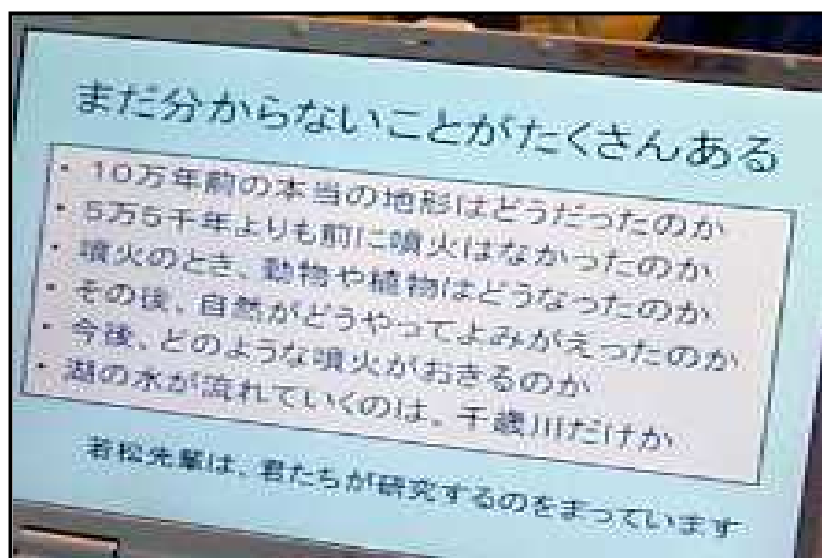
彼はビジターセンターで火山に関するガイドをやっているとか

右端は、鋭い質問があったらどうしようかとビクビク、緊張している若松先輩

父兄は後ろでニヤニヤ見守っている。



それにもめげず、若松先輩は、後輩達にエールを送る



< 55年前の思い出 >

昭和25年頃、支笏湖小学校は1教室で40名ほどの生徒が学んでいた。

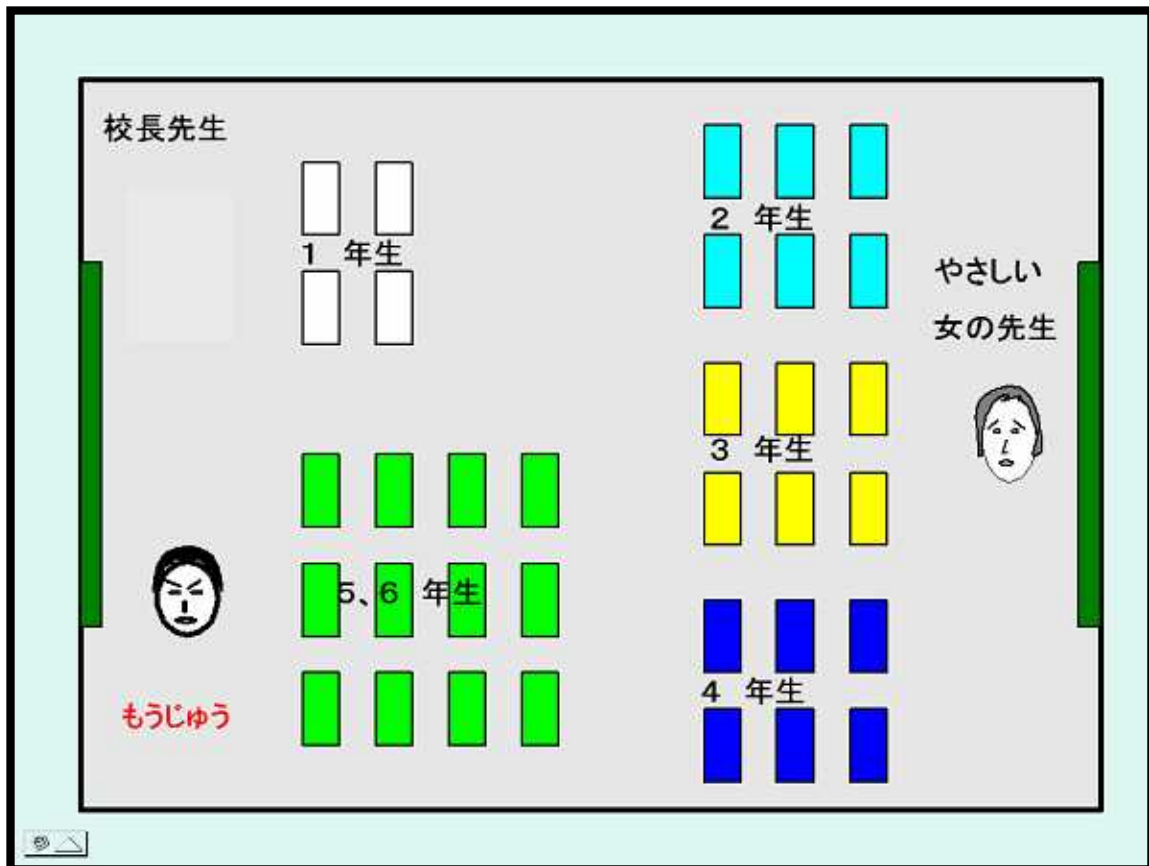
先生は、「もうじゅう」とあだ名をつけた恐ろしい校長とやさしい女の先生2名が下の図のように教室の後と前で教えていた。時々、校長の奥さんが家庭科を教えに来ることもあった。

教室には、赤ん坊をおぶってくる生徒もあり、授業の最中におしめをかえる風景もみられたものである。また、就学前の校長の娘が座っていることもあった。

校長は、その後、北海道新聞文芸欄の短歌の選者をやっていたことがあり、「不凍湖」と題する歌集も出版している。また、今のグラウンドの片隅に歌碑が建立されている。

当時の小学校は、ユースホステルの所にあったが、昭和30年頃、山側の林の中にある今の学校に移っている。

現在の小学校は、全校生徒が12名と少ないが、教室は3教室、立派な屋内体育館や広いグラウンドが整備されており、教職員も8名が勤務している。このような自然の中の学校で、それぞれの個性にあった教育を受けているものと思われるが、子供達の皆が輝いているようにみえた。



支笏湖の成り立ちは…

○Bの若松幹男さん特別授業

吸収剤など使い火山を説明

千歳支笏湖小

千歳支笏湖小学校（西田二校）で二十日、吸収剤を使い火山の成り立ちを説明する特別授業を行った。若松さんと博前町の成り立ちを説明する。町民ら約三十人に二十分を交えて説明した。

若松さんは一九五三年に支笏湖小を卒業。北大理学部を卒業後、民間企業勤務を経て、現在北海道電機調査協会の技術アドバイザーを務める。大学で地質学の非常勤講師を務めた経験もある。子どもたちに支笏湖についてより知ってもらいたいと、同校に授業を申し出た。

授業で若松さんは支笏湖小を懐かしむ。おたよりを今の子供たちに伝えるには学校が



若松さん（左から2人目）とマグマの実験を行う子供たち

あたらと当時の授業や生徒を懐かしむ。地球を懐かしむ。地球の構造を詳しく説明し、紙おむ

この吸収剤を使って、吹き出すマグマの噴火火山の成り立ちを説明し、

支笏湖の成り立ちについては、火山が噴火し、火砕流が噴出した後にできた湖だ。水がたまり、支笏湖ができた。

支笏湖と語り、「まだからはいはいとくちやあ、みんな大きくなつて研究するぞ。若松君は待っていてください」と語りかけた。四年生の佐々木君は「地球のことが少しは知りました。授業で聞いたような噴火実験も、高々吹き上がる煙に子供たちは驚き

の。噴火の様子を

と喜んで



火山の仕組み特別授業

支笏湖小OB、手製の道具で

千歳市立支笏湖小学校(西田昭一校長、児童12人)で26日、55年前の卒業生が火山の仕組みや支笏湖の成り立ちなどを学ぶ特別授業をした。さまざまな手製の道具を使っての実験に、子どもたちは夢中になっていた
|| 写真。

先生になったのは、52年に同小を卒業した若松幹男さん(68)。北大理学部に進み、3年前に退社するまで地質調査会社で働いた。今年夏に支笏湖の住民と昔の思い出や支笏湖の成り立ちを話したのがきっかけで、授業に訪れた。

子どもたちを相手にするのは初めて。マグマの仕組みや火山の噴火の様子を理解する手製の実験道具を持ち込んで臨んだが、子どもたちが面白がる様子に、若松さんの口調も次第に熱を帯びていった。



きのたん



TEL・FAX 0123-25-2729

ホームページ <http://www.city.chitose.hokkaido.jp/ed/shikotsu/>
学校メール es-shikotsu.a@ed.city.chitose.hokkaido.jp

支笏湖小学校
学校だより

No. 310

平成19年11月30日

多数のお客様を迎えて学芸発表会

小学校・保育所の保護者はもとより、地域の方々や遠くのご親戚も来場くださり、大変ありがとうございました。よさこいソーランも3年目となり、今年も違う振り付けで踊りました。保育所は劇、遊戯、音楽とそれぞれに工夫した発表をしました。PTCAは合唱、器楽のほか、お客さんも参加していただいた話題のピリーズ・ブート・キャンプを行い、健康増進に役立てていただけたと思っております。終了後、豚汁とおにぎりを頬張りながら子どもたちの発表に花を咲かせました。後片付けのご協力、ありがとうございました。



「若松幹男氏の特別授業」、子どもたちは大喜び



小学校がユースにあった頃に学んだ若松大先輩が、支笏湖のでき方をわかりやすく教えてくださいました。特に、噴火の仕組みや溶岩については、子どもたちが参加できる実験が用意されていて、低学年にも理解できる授業でした。また、多数の地域の方々にも参観いただき、子どもと一緒に「地域を知る」素晴らしい授業になりました。

絵画入賞者の表彰を全校朝会で行う

「水と緑の絵コンクール」は銀賞に晃司君、銅賞に敏恵さん・凧沙さんが、「MOA美術館千歳児童作品展」は銅賞に春哉君、入選に桃子さん・菜摘さん・太陽君・大輝君が輝き、先月の標語コンクールに引き続き、支笏っ子が活躍し、全校で栄誉をたたえました。



様々な活動に全力で臨む子どもたちの様子



小学校音楽発表会

自然再生体験

サイクリング

「ピノキオ」読み聞かせ

交通安全啓発活動

12月の行事予定

- | | | | |
|------------|-----------------------|---------|----------------------------|
| 12月 1日 (土) | 子ども放送局チャレンジ教室 | 13日 (木) | 少年消防クラブ夜回り 16:30～ |
| 2日 (日) | 少年消防クラブ席書大会 | 14日 (金) | 支笏湖フェスタ、全体懇談会 |
| 3日 (月) | 全校朝会、英会話学習、児童会⑥ | 15日 (土) | フォーラム石狩(江別市) |
| 4日 (火) | クラブ⑩(料理) | 17日 (月) | 清掃強化週間、PTCA全体会⑥
英会話学習 |
| 5日 (水) | 英会話学習 | 18日 (火) | 千歳市への道立高等養護学校
誘致期成会設立総会 |
| 7日 (金) | なかよし集会
市P連合同会議・懇親会 | 19日 (水) | 教育関係機関合同忘年会 |
| 8日 (土) | 華燭の典(大内先生) | 20日 (木) | 英会話学習 |
| 10日 (月) | 児童会⑦、英会話学習 | 21日 (金) | 2学期終業式
スケートリンク作業開始予定 |
| 12日 (水) | 英会話学習 | | |